

第2回 社会教育委員会議 次第

日 時：令和5年11月21日（火）10時から

場 所：STV北2条ビル6階 AB会議室

1 報告事項

野外教育総合推進事業について

2 協議事項

子どもの体験活動の推進について

3 連絡事項

【配布資料】

- ・ 野外教育総合推進事業について・・・・・・・・・・・・・・・・資料1
- ・ 協議事項について・・・・・・・・・・・・・・・・資料2

第2回社会教育委員会議 座席表

令和5年11月21日(火)
教育委員会 6階AB会議室

ホワイトボード

議長 出口寿久

小田島潔恵

臼井栄三

小野寺拓

安田香織

松岡洋一

今泉明子

ホワイトボード

副議長 片岡徹

榊ひとみ

中野吉朗

○ 木村
生涯学習部長

○ 大瀬
生涯学習推進課長

○ 田村
野外教育担当係長

○ 国奥

○ 三井

(※敬称略)

報道席	傍聴席	傍聴席
-----	-----	-----

○

○

○

目指す方向性：多様な主体との連携強化により、子どもたちが等しく自然体験できる機会を創出する

チャレンジ自然体験

概要 不登校により宿泊学習等の機会に参加できていない子どもたちに対し、自然や他者と触れ合う体験機会を提供する。

ねらい

- ・達成感、自己有用感の向上
- ・対人関係能力の改善・向上
- ・教育支援センターを所管する児童生徒担当部等との連携により、参加した児童生徒の学校生活の再開や社会的自立への一助となることを目指す。

→ 野外教育の効果を学校教育に還元

連携先

- ・児童生徒担当部（教育支援センターを所管）
- ・大学、研究機関（企画への指導助言を想定）
- ・民間事業者など

手法

【対象】
教育支援センターを利用している小中学生

【定員】
教育支援センター1か所につき10名

【手法】
教育支援センターで行う体験活動の1つとして日帰り実施。野外教育施設等での活動にこだわらず、対象となる子どもたちの状況にあわせ、教育支援センター内等でも体験可能な活動プログラムを作成する。

地域での
実践

基礎知識・
技術の向上

一体的に実施

活躍の場

基礎知識・
技術の向上

自然体験活動リーダー養成

概要 子どもたちに等しく自然体験活動の機会を提供し続けられるよう、地域等で活動プログラムを実施できる人材を養成する。
(対象は大学生など幅広く想定)

ねらい

- ・野外教育の持続可能な体制構築
- ・生涯学習社会の実現、地域の教育力向上
- ・大学等と連携することにより、新たな機会の創出を目指す。

連携先

- ・大学
- ・野外教育施設
- ・指導者養成を行っている団体など

手法

【対象】
札幌市内に在住または在勤・在学する18歳以上の方

【定員】
20名程度

【手法】
市内の野外教育施設などを会場とし、自然体験活動における基礎知識、安全管理に関する知識・技能、実技及び地域での実践を必須科目とした講座（全5回以上）を実施。
全日程を 修了した方に対し、札幌市から修了証を交付する。

令和5年度協議テーマ 「子どもの体験活動の推進について」

具体的な体験活動

(H25年中教審答申)

○具体的には

「生活・文化体験活動」…放課後に行われる遊びやお手伝い、野遊び、スポーツ、部活動、地域や学校における年中行事等

「自然体験活動」…登山やキャンプ、ハイキング等といった野外活動、又は星空観察や動植物観察といった自然・環境に係る学習活動等

「社会体験活動」…ボランティア活動や職場体験活動、インターンシップ等

対象とする子どもの範囲▶小中学生を中心とし、高校生や大学生は指導者等の関わり方を議論。
体験活動の範囲▶自然体験活動をもとにして、社会体験・生活体験を要素として加えながら議論。

課題

(文部科学省 R4年12月「子供の体験活動推進に関する実務者会議論点のまとめ」)

1 体験活動の「量」の確保

- 学校や青少年教育施設、青少年教育団体、企業等の連携による体験活動の場や機会の充実
- 家庭の経済状況や障害等、困難な状況等にある子どもの参加促進

2 体験活動の「質」の確保

- 安全安心で、子どもの発達段階や興味関心に応じた多様な体験活動の提供
- 達成感や学び、連帯感等を感じられるプログラムの作成
- 参加者や保護者のニーズに応じたプログラムの作成
- 多様な体験活動に関する指導者の確保と養成

3 体験活動の教育的価値の啓発

- 国民全体に向けた体験活動の効果や有用性を広めるための啓発

論点

- ◆札幌市内や近郊にはどのような地域資源があるか？(施設・人材・活動場所等)
- ◆「量」の確保にあたり学校や青少年教育施設、地域等とどのような活用・連携の形が考えられるか？(生涯学習推進構想の図書館の活用と結びつける等)
- ◆様々な理由(経済的・心身に課題がある等)で事業参加に壁がある子どもたちが参加しやすい取組とするうえで、どのようなアプローチが考えられるか？(親子参加等)
- ◆達成感や学び、連帯感を感じられるプログラムを作成するにあたり重要な視点は何か？
- ◆参加者や保護者のニーズ調査や効果の検証において工夫すべき点は何か？
- ◆求められる指導者とは？
- ◆指導者の確保と養成の手段としてはどのようなものが考えられるか？
- ◆体験活動の意義効果を広く知ってもらうにはどのような方法が考えられるか？
- ◆子どもに興味・関心をもたせるための入口となる親へのアプローチについて
- ◆体験の格差解消に向けた方策について
- ◆体験活動の質の向上について(デジタル機器での疑似体験とは異なる本物の体験、複数回、一連の体験とする、子どもの意見を取り入れる等)
- ◆体験活動がもたらす効果(失敗を乗り越えた達成感等)

1.令和5年度の会議スケジュールについて（事務局から・2分程度）

2.動画視聴（10分程度）

長沼町「まおい学びのさと小学校」

～今年誕生したテストも宿題もない学校 道内外から集まった児童たち～

3.熟議について（5分程度）

(1)本日の熟議の進め方（事務局から）

(2)熟議のルールなど（議長から）

4.熟議開始 **【熟議①：体験活動の充実を図るために（80分程度）】**

グループに分かれて熟議

①出口委員長G（小田島委員、安田委員、臼井委員、小野寺委員）

②片岡副委員長G（中野委員、今泉委員、榊委員、松岡委員）

5.次回のお知らせ（5分程度）

日程	内容	熟議テーマ(第1回社会教育委員会議より)
第1回(8月22日)	報告事項(第3次札幌市生涯学習推進構想等) 協議事項(今期の社会教育委員会議の進め方等)	-
第2回(11月21日)	協議テーマに関する熟議①及び報告事項	体験活動の充実を図るために
第3回(1月下旬頃)	協議テーマに関する熟議②及び報告事項	体験活動の質の向上を図るために
第4回(3月上旬頃)	協議テーマに関する熟議③及び報告事項	体験活動の教育的価値の啓発を図るために

※熟議テーマは文部科学省 R4年12月「子どもの体験活動推進に関する事務者会議議論のまとめ」より

本日の熟議の進め方

1. 資料2「論点」を参考に、体験活動の充実を図るために学校・家庭・地域でできることは何かを考え、グループごとに話し合う。

30分

- ・体験活動の充実を図るためにできることを付箋に書き出す。5分
- ・付箋に書いた内容についてそれぞれ説明する。20分
- ・カテゴリー分けする。5分

2. 1の議論を受けて、体験活動の充実を図るための具体策について話し合う。

40分

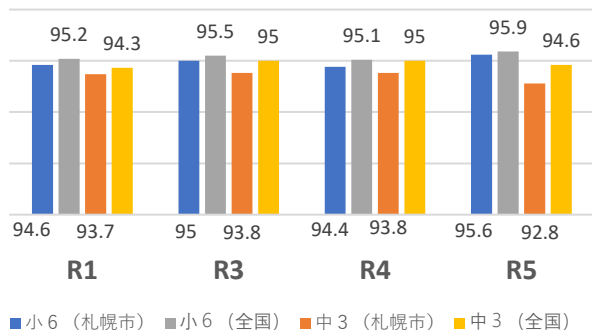
- ・付箋に具体策を書く。10分
- ・カテゴリー分けし、記載した内容について、順番に説明する。20分
- ・出た意見について、グループごとにまとめる。10分

3. 熟議の結果を共有する。10分

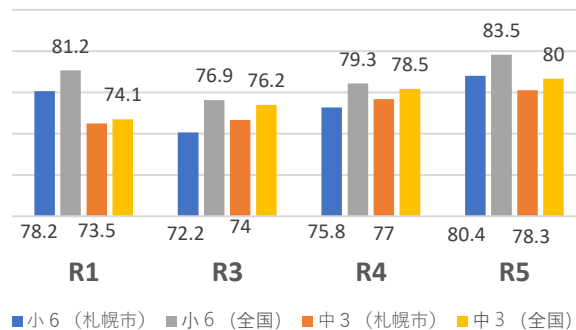
- ・グループごとに、簡潔に話し合った内容を共有する。(2分以内) 5分
- ・総括 5分

全国学力・学習状況調査結果(対象:小学校6年生と中学校3年生)

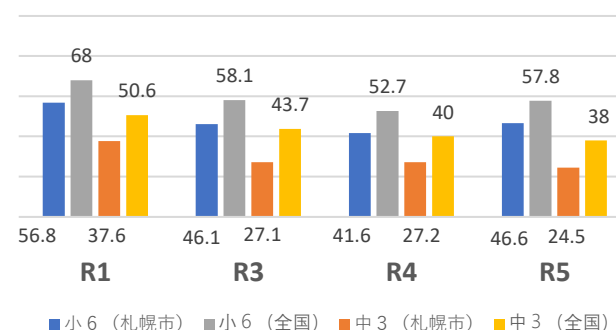
人の役に立つ人間になりたいと思う(%)



自分には、よいところがあると思う(%)



今住んでいる地域の行事に参加している(%)

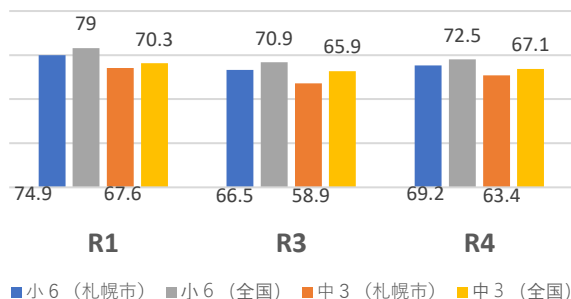


【札幌市の状況】

- ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」の設問においては、肯定的な回答の割合が高い傾向にある。
- ・「自分にはよいところがある」の設問においては、肯定的な回答の割合が徐々に回復傾向にある。
- ・地域には子ども会等による体験活動を含む行事等があるが、地域の行事に参加している割合は、特に中3において減少傾向にある。

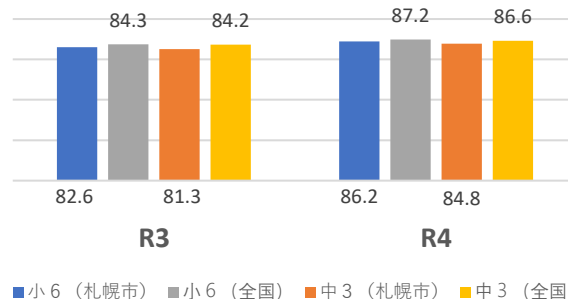
難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している(%)

※R5調査なし



自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている(%)

※R1・R5調査なし



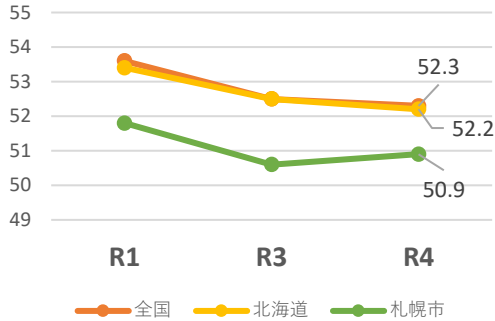
【札幌市の状況】

- ・「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」の設問においては、令和3年度から令和4年度にかけ若干回復傾向にある。
- ・「自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている」の設問においては、8割以上の高水準を維持している。

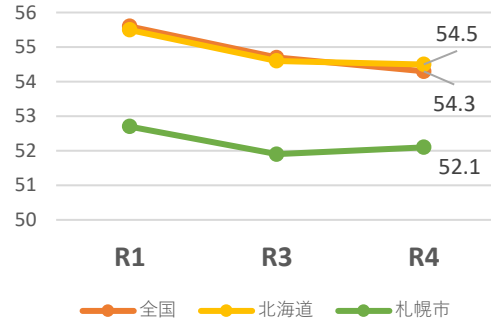
全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果(対象:小学校5年生と中学校2年生)

※体力合計点…小学校は「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」「ソフトボール投げ」の8種目
 中学校は「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「持久走又は20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」「ハンドボール投げ」の8種目

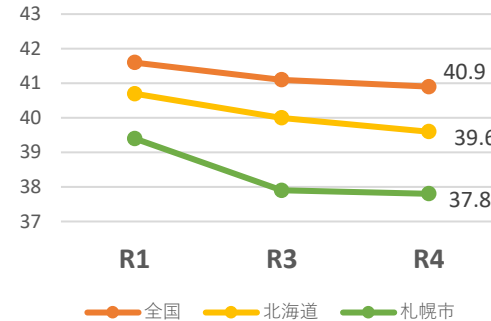
【小学校5年生男子】体力合計点



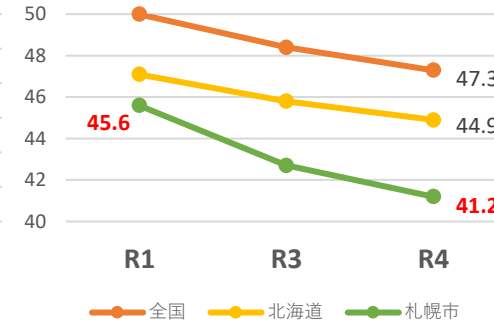
【小学校5年生女子】体力合計点



【中学校2年生男子】体力合計点



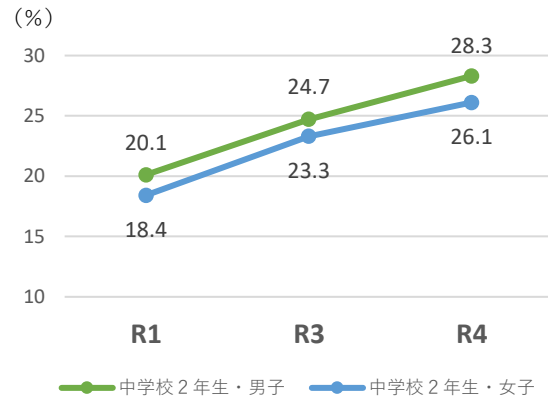
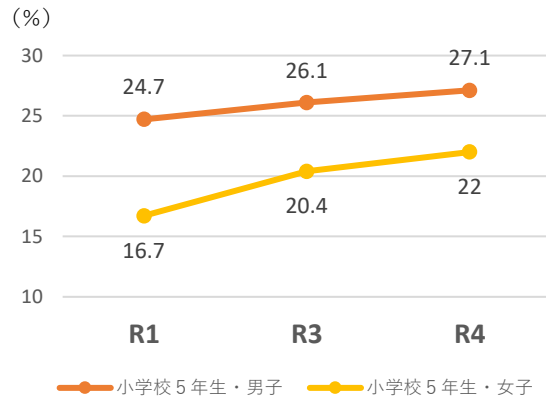
【中学校2年生女子】体力合計点



【札幌市の状況】

- ・小学校5年生男女、中学校2年生男女のいずれも、体力合計点は全国平均及び北海道平均を下回っており、低下傾向が続いている。
- ・特に中学校2年生女子においては、R1～R4の間に大幅に減少している。

質問 平日(月～金曜日)に学校以外で、1日4時間以上、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ている。



【全国的な状況】

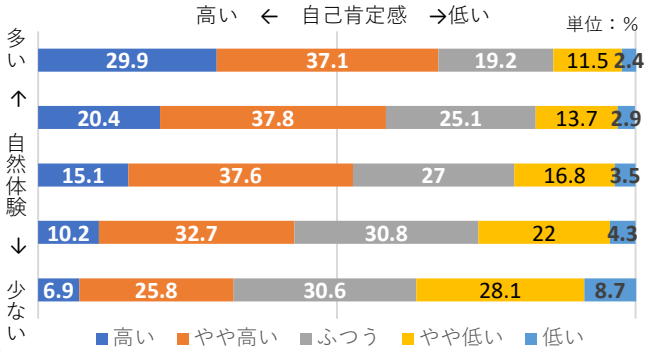
- ・テレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等による映像の視聴時間の経年変化を見ると、1日4時間以上の児童生徒の割合が男女ともに増加しており、特に中学校男女の増加幅が大きくなっている。
- ・学校におけるICT利用が進む中、児童生徒にとってはこれまで以上に身近な道具となり、学習での利用も含め、スクリーンタイムが増加している。

青少年の自然体験活動の効果・現状

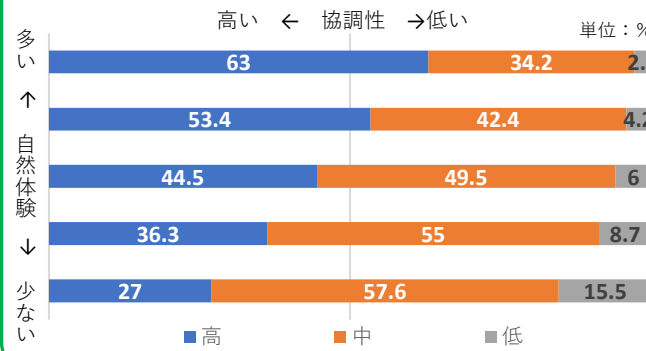
【体験活動の効果（自然体験を抜粋）】

- ・自然体験を多く行った者ほど、自己肯定感、協調性、積極性などの非認知能力が高くなる傾向が見られる。

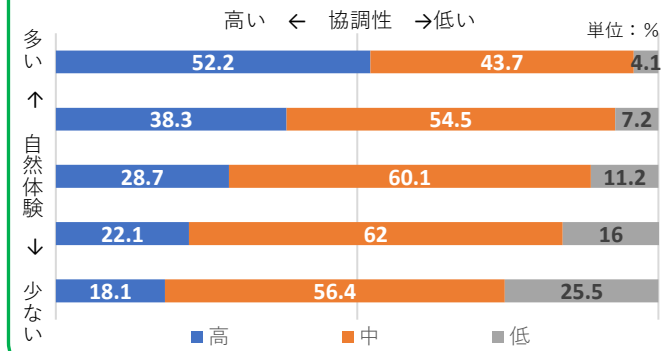
自然体験と自己肯定感の関係



自然体験と協調性関係

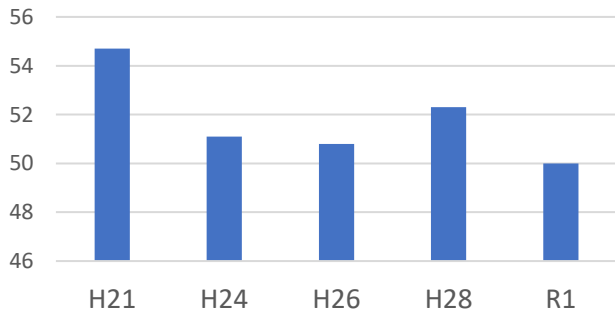


自然体験と積極性関係



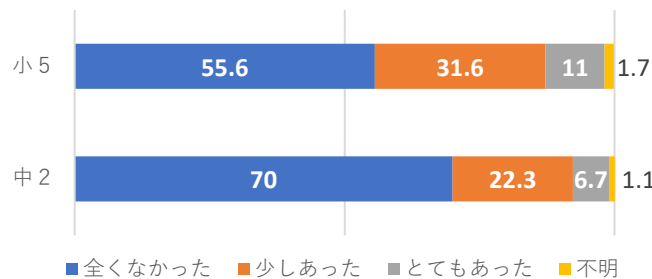
※(独)国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元年度)より

学校以外の公的機関や民間団体等が行う自然体験に関する行事に参加した子ども（小1～小6）の割合（％）



(独)国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する意識調査」(令和元年度)より

夏休みに登山、ハイキング、キャンプなど自然の中で活動した子ども（小5、中2）の割合（％）



「札幌市子どもの生活実態調査」(令和3年度)より

【体験活動の現状（自然体験を抜粋）】

- ・学校以外の公的機関や民間団体等が行う自然体験に関する行事に参加した子どもの割合は50％（主な理由：子どもが関心を示さない、保護者などの時間的負担が大きい）
- ・札幌市では、R3年度に実施した「子どもの生活実態調査」において、夏休みに登山やキャンプなど自然の中で活動した子どもの割合は小学5年生で42.6％、中学2年生で29％に留まっている。

自然体験活動

分類	事業名	所管	ねらい	概要
子育て・ 青少年 育成	プレーパーク推進事業	子ども 未来局	子どもの野外の遊び場確保	公園を活用した子どもの遊び場づくり<公園緑化協会が運営>
	青少年キャンプ場の運営		青少年の野外活動の場確保	西岡、小野幌、手稲に青少年向けキャンプ場を整備 <子ども会育成連合会が管理運営>
環 境	自然観察体験	環境局	生物多様性の普及・啓発	さとらんどで水生昆虫、カエル、トンボの観察
	さっぽろ生き物さがし			子ども達による生物調査プロジェクト、研究成果展示・報告会
	こどもエコクラブ		子ども向け環境教育	環境プラザ展示コーナーを拠点に活動。ヒグマ、葉脈、水、生物などについて観察を通して学ぶ。
	環境広場さっぽろ		環境啓発イベント	子どもを含め、市民が環境保全等について幅広く知る。
	野生動物痕跡探しバスツアー	建設局	ヒグマ対策	定山溪自然の村で熊等の痕跡を観察し、熊への理解を深める。
	いきもの観察会		川の大切さを理解、魚について学ぶ	鴨々川や山部川等で魚を観察<公園緑化協会が実施>
	タッチプール		豊平川サケ科学館でサケを触って観察<公園緑化協会が実施>	
地域振興	月寒川にぎわい川まつり事業	白石区	地域理解の促進と住民同士の つながりづくり	川と子どもをテーマに、子どもたちに、身近な川に触れ合い、水や生き物の面白さや不思議さを体験してもらうイベント
	公園・川での自然体験	—		地域の公園・川での子ども参加型イベント <実施主体は区、公園、その他市有施設など>
教 育	森のようちえん	教育 委員会	幼児の自然体験教育	定山溪自然の村の自然の中で親子（未就学児）で遊ぶ。 <青少年女性活動協会が実施>
	自然体験学習会		小学生の自然体験教育	北方自然教育園の畑やビオトープでの体験・観察学習 <青少年女性活動協会が実施>
	自然体験プログラム提供事業		主に小学生の自然体験教育	青少年山の家の周辺の自然環境を活用した体験プログラム <青少年女性活動協会が実施>

社会体験 & 生活・文化体験活動

分類		事業名	所管	ねらい	概要
社会体験活動	職場体験等	お仕事ごっこフェス	清田区	地元への愛着をもたせる	様々な体験を通して地域の企業やその取組について学ぶ。
		ジモトとのシゴト！ワク WORK！ (高校生職業体験イベント)	経済観光局	就労体験機会の創出	地元企業への将来的な就職を目的とした職業体験イベント
		ミニさっぽろ	関係部局	様々な体験を通して、豊かな育ちを促進する	職業体験や消費体験を通して、働くことの楽しさや大変さを身をもって経験し、社会の仕組みを学ぶ。
	ボランティア	次世代の担い手育成事業	市民文化局	高校生のまちづくり活動参加機会の創出	地域のごみ拾いボランティアをコーディネートする。
生活・文化体験	ものづくり・スポーツ体験等	工作体験等	各区 各施設等	体験機会の提供	土器、コースター、凧をはじめ、雪像等季節の工作も多数あり。
		各種スポーツ大会等	スポーツ局 各区	体験機会の提供	野球、サッカー、アイスホッケー等の競技ごとの大会や複数競技にまたがるスポーツ大会等多数あり。
		音楽会・上映会・読み聞かせ会等	各区 各施設等	体験機会の提供	指定管理施設で実施しているものが多い。 (芸術の森、Kitara、教育文化会館、市民ギャラリー等)
		ハロウィン・クリスマス会等季節の行事やお楽しみ会等	各区	季節の行事を楽しむ	ものづくり、読み聞かせ等のプログラムもあり。
	イベント等	施設での体験イベント等	各所管局	体験機会の提供	芸術の森、国際プラザ、kirara、市民交流プラザ、リサイクルプラザ、大型公園、さけ科学館、水道・下水道科学館等
		環境広場等のイベント等	各所管局	興味・関心を高める	ジュニアプログラミング・ワールド、下水道科学館フェスタ等
教育		学校への出前授業等	各所管局	体験機会の提供	選挙、防災、防犯、租税、音楽・観劇鑑賞、職業体験等多数